

動脈硬化

茶に含まれるカテキン類は動脈硬化を予防する効果があることが知られています。

東北大学の栗山進一博士らにより、1日に5杯以上緑茶を飲む人は、1日に1杯未満の人と比べて、心筋梗塞などの心臓血管の病気にかかる率が約3割少ない、という研究結果が報告されています。

S.Kuriyama, et al., JAMA 296, 1255 (2006)

アレルギー

緑茶の一部の品種（「べにふうき」など）には、メチル化カテキンという、強い抗アレルギー作用のある物質が多く含まれています。野菜茶業研究所の山本（前田）万里博士らが、季節性アレルギー性鼻炎の症状がある人に、「べにふうき」緑茶を、花粉が飛散する2ヶ月前から飲むグループと、花粉飛散後から飲むグループに分けて調査したところ、2ヶ月前から飲んでいていたグループでは花粉が飛散する時期の症状が軽くなることを報告しました。

M.Yamamoto, et al., ICOS 2010, HB-P-27 (2010)

C型肝炎

静岡県掛川市立総合病院の鮫島庸一博士らは、難治性C型肝炎の治療時に粉末緑茶と一緒に摂取することで副作用が軽減され、治療の安全性を高める可能性があることを発表しました。

Y.Sameshima, et al., Kanzo 46-suppl.2, A349 (2005)

インフルエンザ

茶のカテキン類には強い抗ウイルス作用があり、インフルエンザウイルスを不活化させることがわかっています。

静岡県立大学の山田浩博士らは、静岡県菊川市内の小中学校の児童を対象にアンケート調査を行い、週6日以上緑茶を飲む子供は、週3日未満の場合に比べ、インフルエンザにかかりにくかったとの結果から、子供は毎日適量の緑茶を飲むことでインフルエンザの発症を予防できる可能性を示しました。

また、茶のカテキン類を元にした、抗インフルエンザウイルス薬の研究が急速に進んでいます。

大阪大学の開発邦宏博士はEGCgモノパルミチン酸という合成物質が、インフルエンザウイルスの細胞への感染を防ぐことを発表しています。

M.Park,H.Yamada, et al., ICOS 2010, HB-P-6 (2010)

K.Kaihatsu, et al., ICOS2010, HB-S-8 (2010)

糖尿病

神戸大学の芦田均博士らは、茶が食後の急激な血糖値の上昇を抑え、高血糖を予防することや、脂肪細胞の分化を抑制することを明らかにしました。

大阪大学の磯博康博士らは、40歳から65歳までの男女約17,000人を5年間追跡調査した結果、緑茶を多く飲むグループ（1日に6杯以上）の糖尿病の発症リスクが、緑茶をほとんど飲まないグループ（1週間に1杯未満）と比較して3分の1程度少ないことを報告しました。

H.Ashida, et al., ICOS 2010, HB-S-7 (2010)

H. Iso, et al., Ann Intern Med 144, 544 (2006)

第4回 国際 O-CHA 学術会議

The 4th International Conference on
O-CHA (Tea) Culture and Science (ICOS 2010)

2010年10月26日から28日まで静岡市で開催されたこの会議では、茶にかかわる生産、効能の各分野で発表された最新の研究成果について、世界17ヶ国・地域から集まった約700人の研究者が熱い議論を交わしました。また、併せて、公開講座として緑茶効能の最新の研究成果について一般向けの講演が行われました。

発行 第4回国際O-CHA学術会議実行委員会

〒422-8067 静岡市駿河区南町14-1 水の森ビル3階 静岡県経済産業部茶業農産課内
URL <http://www.o-cha2010.jp>